

健康長寿日本一

- 目標：1. 平均寿命は男性は全国10位、女性は全国1位を目指します。
2. 65歳以上の平均自立期間を男女とも全国1位を目指します。

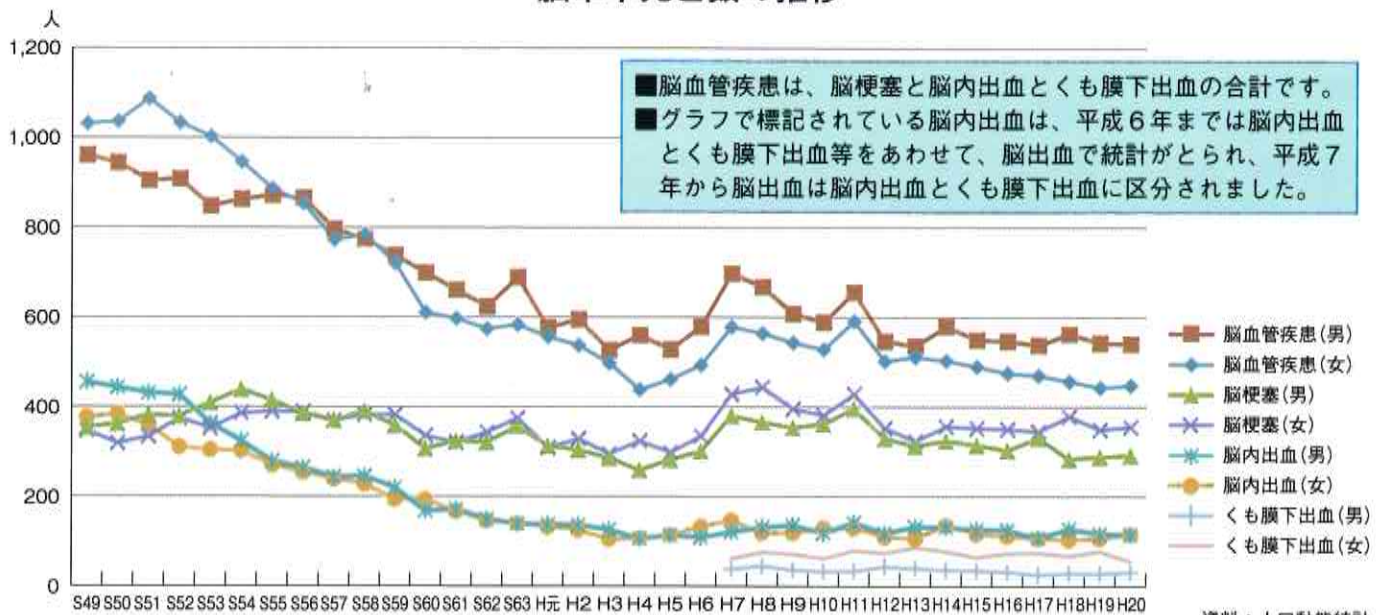
～しまね健康ぶらんより～

島根県では健康長寿日本一を目指して、平均寿命と平均自立期間を延ばすことを目標としています。この目標を達成するためには、脳卒中の発症を減らすことが重要です。

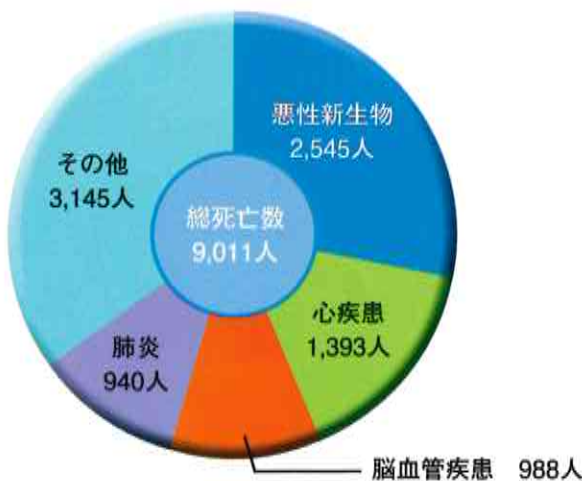


死亡数からみると

脳卒中死亡数の推移



全死亡における死因別死亡割合
(平成20年人口動態統計)



脳卒中死亡は、30年間で半減しています。特に、脳出血が急激に減少しています。しかし、脳梗塞は横ばい状態で、また、脳出血も最近は鈍化しています。

平成20年の全死亡は9,011人、脳卒中による死亡は988人で、全死亡に占める割合は10.4%でした。

死因順位は、悪性新生物、心疾患に次いで、第3位でした。

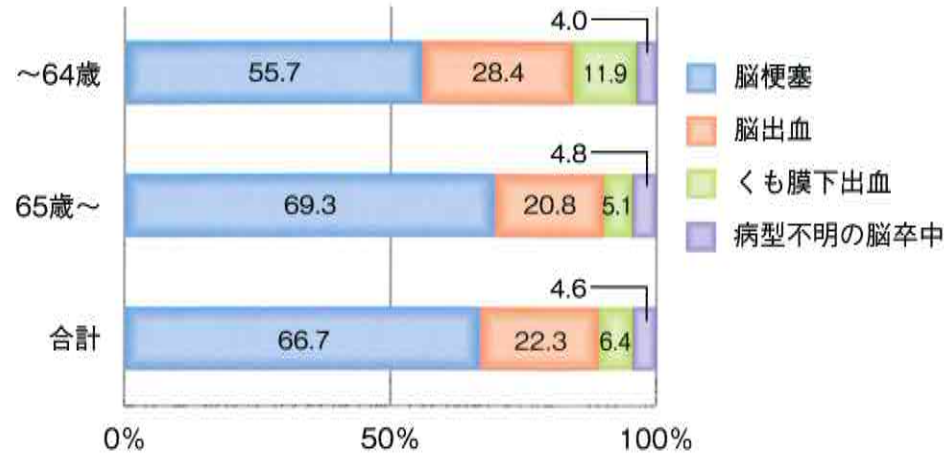


平成19年島根県脳卒中発症状況調査結果からみると

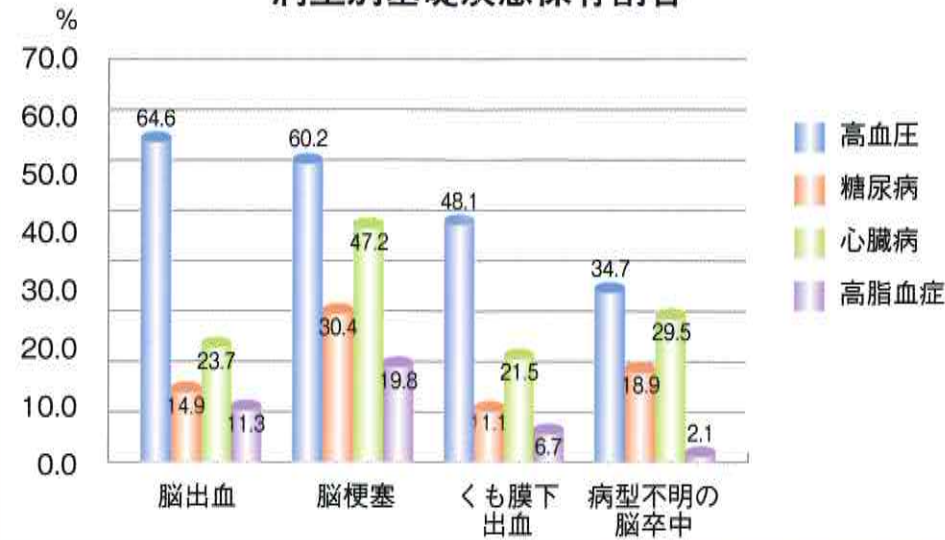
(平成19年に島根県が、県内25医療機関の協力により実施した調査数2,107件をまとめた「平成19年島根県脳卒中発症状況調査報告書」からの抜粋です。)



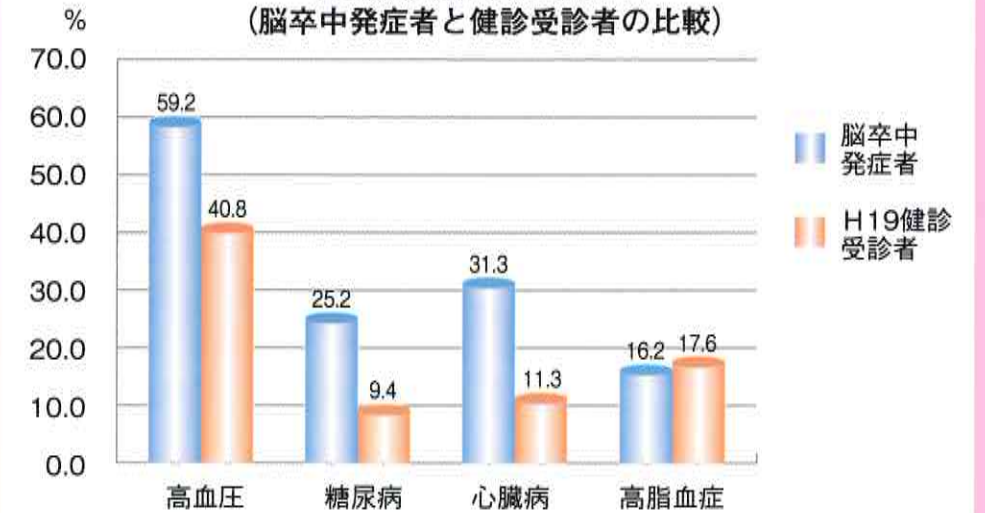
病型別発症割合



病型別基礎疾患保有割合



基礎疾患の保有割合 (脳卒中発症者と健診受診者の比較)

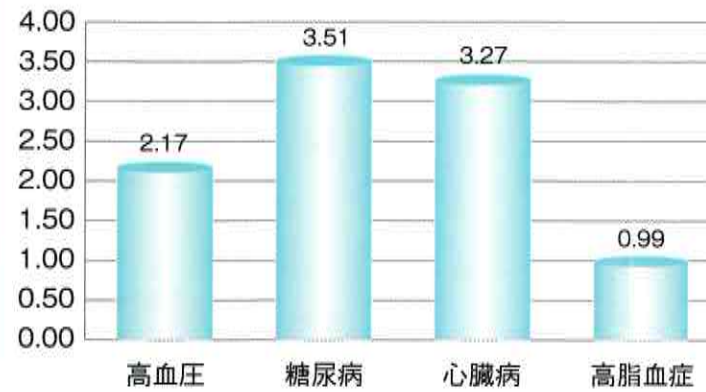


脳卒中発症者全体の約6割が脳梗塞でした。特に高齢者ではその傾向が高くなります。

脳卒中発症者のうち、1年未満に再発する割合は、約6%（推定再発率）でした。また、再発した人のうち約3割は1年未満の再発でした。



相対危険度（推定値）



脳卒中発症者の基礎疾患保有状況を見ると、どの病型でも高血圧が多かったです。脳梗塞は、高血圧に加え、心臓病や糖尿病を持っている人の割合も多かったです。

高血圧などの基礎疾患を持っている人は持っていない人に比べてどのくらい脳卒中になりやすいかを計算してみました（相対危険度）。高血圧を持っている人は持っていない人に比べて2.17倍、糖尿病を持っている人は3.51倍、心臓病を持っている人は3.27倍、脳卒中になりやすいという結果になりました。

基礎疾患を複数持っている場合は、高血圧+糖尿病+高脂血症では3.45倍、高血圧+糖尿病では3.58倍、高血圧+心臓病+糖尿病では7.37倍、高血圧+高脂血症+心臓病+糖尿病では8.30倍と、基礎疾患を多く持つほど脳卒中の発症の危険が高くなります。

脳卒中予防には、高血圧対策だけでなく、糖尿病対策が重要であることが分かりました。



初発から再発までの期間



1年未満の再発率は6.37%です。

(再発した者335人のうち初発から再発までの期間別割合)

相対危険度（推定値）

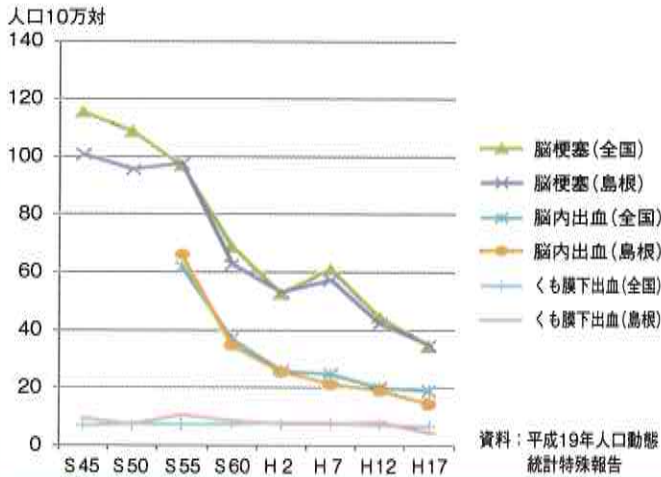


相対危険度（推定値）とは？ 脳卒中の危険因子である「高血圧」「糖尿病」「高脂血症」「心臓病」について、基礎疾患を持っている人は持っていない人に比べて何倍脳卒中になりやすいかを平成19年基本健康診査受診者のデータを基に計算しました。

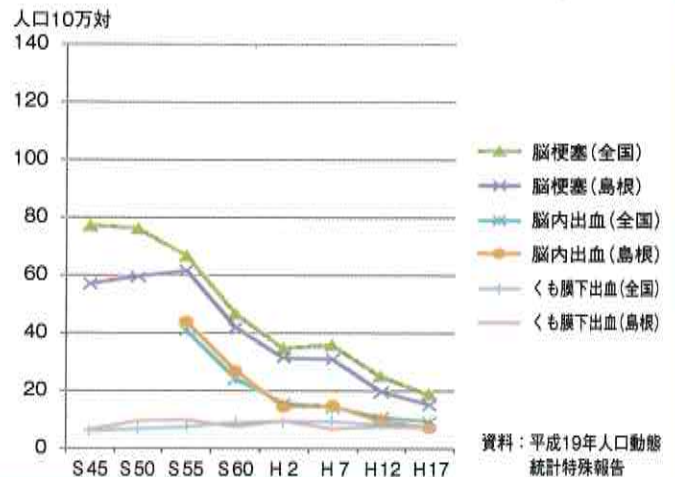
年齢調整死亡率からみると



脳卒中年齢調整死亡率推移：男性

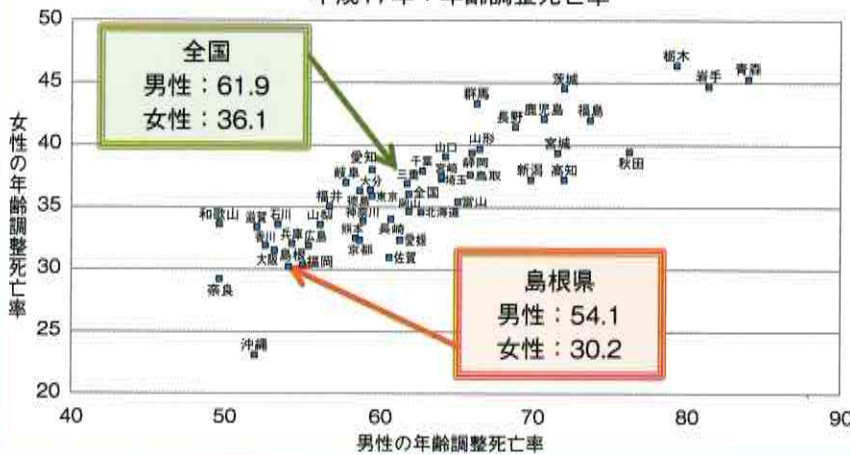


脳卒中年齢調整死亡率推移：女性



男女の年齢調整死亡率

平成17年：年齢調整死亡率

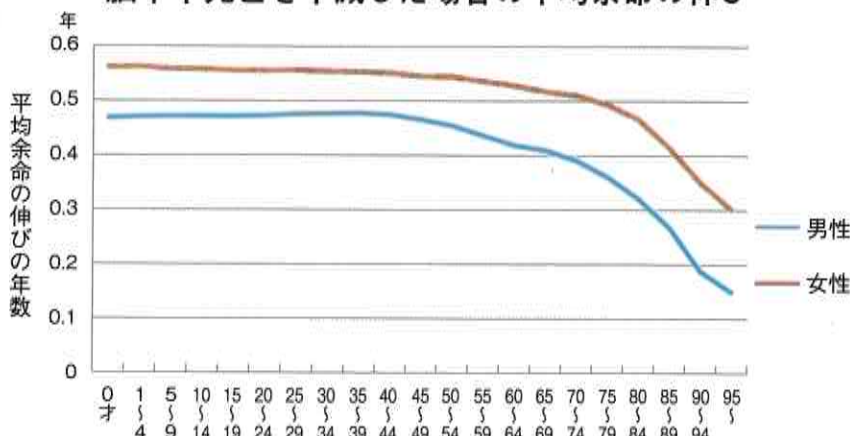


年齢調整死亡率は、昭和45年から比較すると激減しています。平成17年の年齢調整死亡率は、男性では54.1でベスト8位、女性では30.1でベスト3位でした。

- 年齢調整死亡率とは？年齢構成の異なる集団間で比較できるように、年齢構成が同じだと仮定して計算した死亡率です。
- 島根県は、高齢者の割合が多いため、他の都道府県との比較には、この処理が欠かせません。

平均余命の伸びからみると

脳卒中死亡を半減した場合の平均余命の伸び



年齢階級別平均余命は各年齢の人が後何年生きることが期待できるかという値で、0歳の平均余命が平均寿命です。

全ての年齢で脳卒中死亡が半減すれば、男性では0.47歳、女性では0.56歳平均寿命が伸びることが分かりました。(2005年を中心とする5年間の島根県の人口動態統計資料を基に算出)



このパンフレットは、保健環境科学研究所のホームページに掲載しています。

<http://www.pref.shimane.lg.jp/hokanken/>